

運送業界の健康支援を生きがいに



195 感染症が高まる場面

今年の夏は全国各地が豪雨に襲われ、甚大な被害が出ました。その上、デルタ株によるコロナウイルス感染の急拡大など、何とも厳しい夏でしたね。

Withコロナといわれて久しいですが、感染力の強いデルタ株ウイルスが蔓延し、再び緊急事態宣言下の生活が強いられることになりました。さらに今やウイルスは都市部から地方に、そして大人から子供たちへと広がり、コロナ感染収束の様相は見えずうにありません。

■「緊張」にギアを
昨年4月、初めて「緊急事態宣言」なるものを体験し、なかなか手に入らないマスクや消毒液をこぞって

買い求め、手洗いやアルコール消毒

を入念にし、人込みを避けた生活をしながら、誰もがコロナという感染症を脅威と感じていたのではないのでしょうか。

ところが現在、店頭に設置されているアルコールで手指消毒をする人が激減しているといわれています。私見ながら、これら一連の行動が今回のコロナ拡大につながっているのではと、人々の深層心理を探らないではいられません。ワクチン接種は進みつつありますが、多くの人の日々のちょっとした気の緩みに、今一度、「緊張」というギアを入れて、一刻も早い収束の糸口を見つけたいもの

です。
■感染症が高まる「5つの場面」
それでは今、何ができるかといえば、マスクの着用、手洗い、消毒、3密の回避など、当たり前のことを継続して行うことなのです

ね。新型コロナウイルス感染症対策として、「感染症が高まる5つの場面」が行政からも示されています。

1. 飲食を伴う懇親会等
2. 大人数や長時間におよぶ飲食
3. マスクなしでの会話
4. 狭い空間での共同生活
5. 居場所の切り替わり

これらの場面を改めて振り返ると、誰もがふと「自分は大丈夫」と羽目を外してしまいそうな状況が浮かびます。しかし、多くのクラスターが発生している場面であることも事実です。

人々が語り合えるアフターコロナを目指して、もう少しだけ我慢しましょう。

《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>

(次回は10月11日号に掲載)